



COOP JOSO News Letter

常総生活協同組合
発行 / 生協広報G

【ものづくり・人づくり・地域づくり】2017 年度活動テーマ ～地元のやさいを食べよう～
も～っと地元のやさいを食べよう!!

援農から縁農へ!!



生産者お手伝い（お邪魔!?）活動報告!（^）!



**組合員、職員で収穫&作業のお手
伝いをしてきました。**

【2017 年 10 月の予定】

●生協基幹運営／地域活動・催し●

【定期開催の催事】

- ・ 毎週木曜日につくば桜運動公園ゴンタの丘にて地域コミュニティ活動中。
- ・ 10 月は第 3 金曜日にゆるカフェ開催。「5 アンペア講習会」
- ・ 毎月第 1 土曜日にじょうそう朝市を開催しています。

10/14（土）稲葉先生料理講習会
10/15（日）我孫子産業祭
10/25（水）理事会
10/28（土）「歴史を学ぼう」市民講座

●提携・協同・連帯企画●



10/6-8（金-日）ネットワーク 21 生協専務交流会
10/14（土）関東子ども健康調査基金年次報告会
10/21-22（土-日）水戸検診
10/26（木）東海第差止訴訟第 19 回口頭弁論

9/9 土れ味農園（天池さん）縁農（報告者：供給部 滝本）



作業内容はきゅうり（黒さんご）のパイプ撤去、地ならし。次に植える予定のほうれん草の種付の準備。

畑に移動し、天池さんの指導の元作業開始。パイプ撤去、紐の取り外しなどの手順、ポイントを教わりました。2列のパイプ撤去の為2人ペアになり進めて行きました。普段は天池さん1人で行っている作業とのことでしたが、正直1人でやるには丸1日はかかると思いました。

天池さん自身も早くパイプ撤去、片付けをし、次に植える野菜の準備をしたいところだが、今の収穫を優先してしまい、後回しになってしまうらしいです。改めて人手が不足していると感じました。

アルバイト募集などのお話しになったが、実際農作業は細かく、繊細なので、人任せにすることができないのが現実。人を雇う＝収入が減る。改めて農業は厳しい世界だと実感しました。今回体験したことを多くの組合員に発信していきます。反省点は組合員さんを集められなかったことです。今回のチラシ配布のタイミングが手入れが多い週と重なってしまったこと、商品情報の右側印刷だったことがあげられます。次回以降は配布のタイミングを考慮していきます。



9/16 微生物農法の会（長島さん）縁農（供給部：阿部）

長島さん宅から少し離れた田んぼへ車で移動。すでに半分くらい稲は刈られていて準備は整っていた。見慣れない人が2人作業を行っていました。

後で聞いたところボラバイト（ボランティア+バイト？）の人だそうです。若い方は沖縄からボラバイトをしつつ日本を北上しているそうです。その彼が田んぼの中に鉄パイプを設置し、その上に竹を通して準備をしてくれていました。その上にコンバインで刈り取った稲をはぎ掛けしていききました。難しくないので初心者の私でもすぐに慣れてきました。とりあえず時間までにほぼ1列をはぎ掛け完了。ただただ人の手が必要な作業だったので前よりも役に立てた気がします。この天日乾燥させることで強制的に乾燥させたお米よりもおいしくなるのは世界の七不思議の1つです。長島さんのお米は生協でもスポットで企画があるのでおすすめです。



9/16 清水農園（清水さん）縁農（報告者：商品部 小宮山）

作業内容は人参の草取り、キャベツのヨトウ虫の除去を行いました。人参に限らず、無農薬・無化学肥料で最も重要（過酷）なのがこの除草作業です。「この畝の除草作業は今回で4回目」と話しますが、お手伝いメンバーと清水さんご夫婦合わせて7人でやって1時間以上かかりました。年間50～60種類の野菜を主に2人で作業している事を考えると、とても大変な事が分かりました。「有機農業は自然相手なので、全て100%作物ができるわけではない、総じて6～70%できれば良い」と清水さんは語ります。自然相手だからこそ共存し、できる範囲で人間が成長のお手伝いをする。今回の作業を通じて有機農業をまた少し学んだ気がします。次回は11月上旬で秋野菜を収穫する予定です！今から楽しみです！



～参加した組合員さんの声～

今回で3回目になります。清水さんご夫婦がどのように野菜を作り、土や自然や社会に対してどのような考え方をお持ちかが分かって、野菜セットを購入する際も商品に対する理解が生まれます。虫を手作業でとったりする姿に安全への思いも深まると思います。息子もたくさんの野菜と虫に囲まれ、毎回やさしい気持ちや農作物への興味を持って帰れるようです。



（守谷市 Nさん）

関東子ども健康調査支援基金

第4年次活動報告会のお知らせ

いま、こどもたちの未来のために。



東京電力福島第一発電所事故から6年半、当基金による甲状腺エコー検査は4年が経過しようとしています。毎月、各地での検診を重ね、受診者は、延べ7600人を越えました。皆さまに支えられて、ここまで続けてこられましたこと、共同代表一同、感謝申し上げます。

さて、下記の通り、第4年次活動報告会を開催いたします。併せて、基金の設立時から検診に協力いただいている、**島根大学医学部 特任教授の野宗義博先生**に、お話を伺いますので、是非ご参加ください。

【日時】2017年10月14日(土) 午後13時～16時 開場 12:30

【会場】守谷市 常総生協本部 2階 組合員活動室

茨城県守谷市本町281 つくばエクスプレス守谷駅土塔口より徒歩7分

【対象】基金会員の方(当日入会可、申込制 9月末締切)

【資料代】500円

【内容】13:00～第4年次活動報告会

(4年次の検診結果概況、会計報告など)

14:00～野宗義博先生よりこれまでの検診結果を振り返りながら、これから何に気をつけて子ども達の検診を続けていけばよいか等、お聞きします。

●託児はありませんが、簡単なキッズスペースを用意します。



野宗先生のプロフィール

島根大学医学部 総合医療学講座 特任教授

昭和52年 広島大学卒

◎所属学会: 日本外科学会、日本消化器外科学会、日本臨床腫瘍学会

*ベラルーシやウクライナ、カザフスタン(旧セミパラチンスク:ソ連による核実験が行われた地域)などで、20年以上にわたり、被ばく者検診、医療支援を継続。当基金協力医。

《申込・問い合わせ》 関東子ども健康調査支援基金事務局 きもと

メール ibachiba@kantokodomo.info 電話 0297-38-8539 FAX 0297-45-6675

関東子ども健康調査支援基金 4年次報告会 参加申込書

お名前 _____ 連絡先 _____

コース名 _____ 班名 _____ 組合員番号 _____

みんなの

せけんコラム #10

溜め洗いNG！洗ったらすぐ流す

今日のコラムは理事の佐藤（登）です。石けんは使い始めたばかりなのでPAX ナチュロンの工場見学で学んだことから、今日はこれについて⇒⇒⇒洗い物をする時って、まず、一気にスポンジでゴシゴシして、こんなふうに食器タワーを作って、最後にまとめてすすぎますよね。

実はこれ、石けんではNGなんです！ご存知でしたか？

石けんで汚れが落ちるのは「石けんの成分が汚れをつかむから」です。この「汚れをつかむ力」は、泡がブクブクしている時こそが「最強」です。しかしこの力は、食器洗いで跳ねた水がかかるだけでも弱～くなってしまい、

つかんだ汚れを手放してしまいます。そして、油汚れが食器に戻るため、洗ったにもかかわらずネトリ感が残る原因に（「～」；）ウーン

なので、石けんで食器を洗う時は、1つゴシゴシしたらすぐ流水で流してください。



イラスト

やまがみあやの

そして、石けんはケチケチ使わない。泡がしっかり立ってこそ汚れが落ちるのです。石けんでの洗い物は「1枚洗ったらその場ですすぎ」「ケチケチ使わない」がコツです！

ちなみに、写真のものも写真を撮ったあと、すぐにすすぎましたが、やはりベトリしていたので、洗い直しました（^^；

次回は「洗剤代わりの米ぬかのこと」お楽しみに♪（さとう_登@我孫子市）



システムトラブルに関するお詫び（専務理事 伊藤博久）

いつも常総生協への活動、利用へのご協力ありがとうございます。

9月23日（土）の朝6：00にデータベースサーバがダウンする事態が起きてしまいました。それによって、金曜日コースの注文受注を読み取ることができず、生産者へ発注ができない状態になってしまいました。供給商品の遅配、請求書の件で組合員の皆様に多大なご迷惑をおかけし、誠に申し訳ございませんでした。



9月27日AM3：00にシステム復旧することができました。これにより、業務が正常に機能することができるようになりました。

（原因）

サーバー機の老朽化による故障です。機器自体が古い事もあり、データの取り出しも難しく、専門業者に依頼しながら復旧作業を行い、すべてのデータを取り出すことが出来ました。

東海第二原発の老朽化を問題視している所で、生協のサーバー機の老朽に問題意識が弱かったことに、本当に恥ずかしい限りと、反省しかありません。

（今後について）

今回起きたことを糧にシステム強化を事業所として反省をし、振り返りを行い、今後、生産者、メーカー、組合員の皆様にご迷惑をかけない様、リスク管理意識、実務、実態の改善に向けて取り組んでまいります。

今後とも変わらぬ生協への利用、活動への協力どうぞ宜しくお願い致します。